

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 22 日現在

機関番号：12401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K17043

研究課題名(和文) Research on Financial Diaries of Poor Households in Cambodia and International Comparison Analysis

研究課題名(英文) Research on Financial Diaries of Poor Households in Cambodia and International Comparison Analysis

研究代表者

サムレト ソワンルン (SAMRETH, Sovannroeun)

埼玉大学・人文社会科学部研究科・准教授

研究者番号：90614371

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、カンボジアにおける貧困層のファイナンシャル・ダイアリー(収入源、支出動向や金融取引などの記録)のデータ・ベースを作成した上で、そのファイナンシャル・ダイアリーの特徴を検証した。具体的には、貧困世帯の金融市場へのアクセスや収入源および支出などの状況を明らかにした。さらに、既存の研究によって検証された他の国における貧困層のファイナンシャル・ダイアリーの結果と国際比較分析も行った。本研究の結果から、貧困層のファイナンシャル・ダイアリーの特徴に関して新しい知見を得ることができた。

研究成果の概要(英文)：The information on financial diaries (i.e., income, expenditure, financial transaction, etc.) of the poor can provide important implications for policy actions to improve their living standards. As the first attempt, this research constructed a database of financial diaries of poor households in rural Cambodia and analyzed the patterns in those financial diaries. Furthermore, it also implemented comparative studies on financial diaries of the poor in Cambodia and the poor in other countries. Various implications and new insights into financial diaries of the poor were obtained from this research.

研究分野：国際経済学、開発経済学

キーワード：Financial Diaries Cambodia

1. 研究開始当初の背景

これまでの研究では、貧困層は食料や生活必需品などに所得の大部分を費やし、貯蓄が少なくなるため、支出動向や金融取引などが活発でないと考えられてきた。しかしながら、Ruthven (2002)、Rutherford (2003)、Collins (2005)や Collins et al. (2009)などのファイナンシャル・ダイアリー（収入源、支出動向や金融取引などの記録）に関する研究で示されたように、バングラデシュ、インドや南アフリカなどにおいては、貧困層の収入源および支出動向が多様であり、インフォーマルな金融を通じて、金融取引なども活発に行われていることが知られている。

貧困層のファイナンシャル・ダイアリーに関して情報を適切に収集、分析することによって、貧困層の生活水準を改善するための有効な政策を考える際に重要な含意が提供されることが多くの研究によって示されている。そのため、これまで貧困層のファイナンシャル・ダイアリーに関して多く研究されてきた。しかしながら、これらの研究は、特に南アジアやアフリカなどの地域を中心に行われており、東南アジア地域における研究は未だに少ない。本研究は、東南アジア地域に属するカンボジアに焦点を当てて、貧困層のファイナンシャル・ダイアリーのデータ・ベースを作成し、分析および考察を行う。

カンボジアに焦点を当てる理由は、次の通りである。

(1) 近年、カンボジアは目覚ましい経済成長を達成しているが、いまだに東南アジアの中では貧困の比率が相対的に高い水準にあり、1人当たり所得に関しても最も低い水準である。相対的に高い貧困比率および低い所得水準から、東南アジアの中でカンボジアは、貧困層のファイナンシャル・ダイアリーを検証するに当たって重要な対象である。

(2) カンボジアは、1970年から1998まで約29年間にわたり内戦の状態に陥っていた。特に、1975年から1979年までのポル・ポト政権の下では、虐殺や強制労働などによって当時の人口が約3割減ったという暗い過去も経験した。このような長い内戦および他に類をみない悲惨な歴史の経験は、人々の価値観およびリスクに対する選好に影響を与え、その結果人々の金融取引などの

経済行動に影響を及ぼしている可能性がある。したがって、カンボジアのケースをバングラデシュ、インドや南アフリカなどのケースと比較分析を行うことで、ファイナンシャル・ダイアリーの研究において新しい知見および含意を与えてくれることが期待できる。

2. 研究の目的

本研究は、まず、カンボジアにおける貧困層のファイナンシャル・ダイアリーのデータ・ベースを作成し、次に、作成されたデータ・ベースを用いて、カンボジアにおける貧困層のファイナンシャル・ダイアリーの特徴を検証することを目的とする。具体的には、貧困世帯の金融市場へのアクセスや収入源および支出などの状況を明らかにする。また、経済的なショックなどが起きたときに、貧困層がどのように対処するかについても明らかにする。さらに、既存の研究によって検証されたバングラデシュ、インドや南アフリカなどにおける貧困層のファイナンシャル・ダイアリーの検証結果と国際比較分析も行う。

3. 研究の方法

カンボジアにおける各地域の貧困状況および Samreth (2013)を参照したうえで、調査対象地域としてカンボジアの東南部に位置しているプレイベン州メイサン郡のアンコール・ソーコミューンを選定した（図1）。カンボジア政府は、貧困層の正確な状況を把握するために、貧困層の生活状況について定期的に調査を行ない、その調査の結果に基づいて貧困層を「貧困レベル1 (Poor Level 1)」と「貧困レベル2 (Poor Level 2)」に分けている。貧困レベル1の世帯は、カンボジアの中で最も生活水準が低い世帯である。カンボジア計画省の2015年のデータによると、アンコール・ソーコミューンにおいて貧困世帯がコミューンの全体の世帯の約45%を占めている。プレイベン州メイサン郡の中でこの比率は、他のコミューンに比べて最も高い水準である。その中で4割以上（557世帯）が貧困レベル1に分類されている。本研究では、調査対象として、その貧困レベル1の世帯に注目した。

図1. 調査対象地域



出典：カンボジア公共事業運輸省

本研究は、アンコール・ソーコミュニケーションにおける貧困レベル1の世帯の中から、無作為抽出で120世帯を選定した。まず、2016年にこの120世帯に関する情報（構成、教育水準、土地の所有状況など）、前の月の収入源、支出動向や金融取引などについてサーベイおよびインタビュー調査を行なった。次に、この120貧困世帯の中から、無作為抽出で60世帯を選び、1年間かけて（2016年8月から2017年8月まで）それらの世帯のファイナンシャル・ダイアリーを調査するために、定期的に各世帯を訪問し、記録したファイナンシャル・ダイアリーの確認および収集を行なった。

4. 研究成果

本研究で行った調査結果の詳細な情報と検証は Samreth(2016)や Samreth(2017)などに記載されている。ここでは、主な結果だけを記すことにする。

(1) 世帯情報に関して調査の結果から、6割以上の世帯が出稼ぎのために、少なくとも世帯構成者1人が別の地域あるいは隣国(主にタイ)に移動したことが分かった。

(2) 殆どの世帯が井戸などで安全な水にアクセスすることができているが、約半分の世帯が重要な衛生施設であるトイレを持っていないことが分かった。

(3) 農村部の生活基盤である農業用地の所有状況に関して、調査対象の世帯の約3割が土地を持っていないことが分かった。土地を所有している世帯の中で平均的に1世帯当たりの所有面積が小さいことに加えて、かなりの割合の世帯が土地の公式な権利証を持っていない状況である。

(4) 世帯の収入を検証した結果、収入源が多様であり、農業生産活動以外に生計を

立てるために、様々な経済活動を行っていることが分かった。その中で、出稼ぎの世帯構成員の送金が最も重要な収入源である。

(5) 世帯の支出動向に関して、食糧や生活必需品などへの基礎的な消費が最も大きいことが分かった。続いて、結婚式、祭儀、債務の返済や医療サービスなどへの支出も大きな負担である。

(6) 多くの世帯で支出は収入を超えているため、借り入れをしていることが分かった。金融市場へのアクセスの状況を見ると、マイクロファイナンス機関などの公式な金融機関以外に高利貸から借り入れをしている世帯がかなりの割合を占めている。借り入れの金利が非常に高く、マイクロファイナンス機関から借り入れた場合は約3%の月利であり、高利貸から借り入れた場合は10%の月利の場合もある。2017年4月から、カンボジア政府は、マイクロファイナンス機関の貸し出しに対して法的な制限金利をかけて、年利の上限を18%（約1.5%の月利）に設定した。しかしながら、高利貸の貸し出しの場合、非公式な金融であるため、いまだに非常に高い金利で取引が行われている可能性が高い。そのため、債務の返済が大きな負担となっている。調査の結果から、非公式な金融に依存している世帯の1つの特徴は、担保にできるような農業用地を持っていない傾向にあることが分かった。

(7) カンボジアにおける貧困層の経済活動は、バングラデシュ、インド、および南アフリカなどにおける貧困層の経済活動と様々な類似点がある。例えば、それらの国のケースと同じようにカンボジアにおいても、生計を立てるために、貧困世帯は農業生産活動以外に様々な経済活動を行っている。出稼ぎの世帯構成員からの送金は、世帯の1つの収入源となっているが、カンボジアの場合は送金の役割がとりわけ重要であることが分かった。調査対象の世帯の支出動向を検証した結果、結婚式や祭儀などへの支出負担がかなり大きいという特徴は、バングラデシュ、インドや南アフリカなどにおける貧困層の支出動向にもみられる特徴である。

本研究は、カンボジアにおける貧困層のフ

アイナシナル・ダイアリーのデータ・ベースを作成し、検証する最初の試みである。得られた研究成果は、日本国内外の学会、研究会や学術雑誌などで発表された。本研究における調査で作成されたデータ・ベースは、他の研究者も利用できるように公開する予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 4件)

(1) Samreth, S. (2017) “Findings from a Preliminary Survey of Poor Households in Rural Cambodia: A Case of a Commune in Prey Veng Province,” Saitama University Review (Faculty of Liberal Arts) 53(1), pp. 59-70. (査読無)

(<http://jairo.nii.ac.jp/0040/00020720/en>)

(2) Okada, K. and Samreth, S. (2017) “Corruption and Natural Resource Rents: Evidence from Quantile Regression,” Applied Economics Letters 24, pp. 1490-1493. (査読有) (DOI: 10.1080/13504851.2017.1287849)

(3) Samreth, S. (2016) “A Preliminary Survey on the Poor Households in Angkor Sar Commune, Mesang District, Prey Veng Province, Cambodia: Household Information” Saitama University Review (Faculty of Liberal Arts) 52(1):pp.111-120. (査読無)

(<http://jairo.nii.ac.jp/0040/00018880/en>)

(4) Samreth, S. (2015) “An Estimation of the Money Demand Function in Cambodia,” Economics Bulletin 35, pp. 2625-2636. (査読有)

(<http://www.accessecon.com/Pubs/EB/2015/Volume35/EB-15-V35-I4-P264.pdf>)

[学会発表] (計 4件)

(1) Samreth, S. (2017) “Findings from a Preliminary Survey of Poor Households in Rural Cambodia: A Case of a Commune in Prey Veng Province,” The 11th Annual Conference of the Japanese Society for Cambodian Studies, Waseda University, Tokyo, Japan.

(2) Samreth, S. (2017) “Economic Growth

and Development in Cambodia during the 1990s and 2000s,” The 2017 Spring Convention of the Japan Association for Asian Studies, Hitotsubashi University, Tokyo, Japan.

(3) Samreth, S. (2017) “Findings from a Preliminary Survey of Poor Households in Rural Cambodia,” 2018年度第1回リベラル・アーツ研究セミナー, Faculty of Liberal Arts, Saitama University, Saitama, Japan.

(4) Samreth, S. (2016) “A Preliminary Survey on Poor Households in Rural Cambodia: Evidence from a Commune,” SEAP Gatty Lecture Series, Southeast Asia Program, Cornell University, New York, USA.

[図書] (計 0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者
サムレト ソワンルン (SAMRETH Sovannroen)
埼玉大学・人文社会科学部研究科・准教授
研究者番号：90614371

(2) 研究分担者
なし

(3) 連携研究者
なし

(4) 研究協力者
なし